

中生代の河川

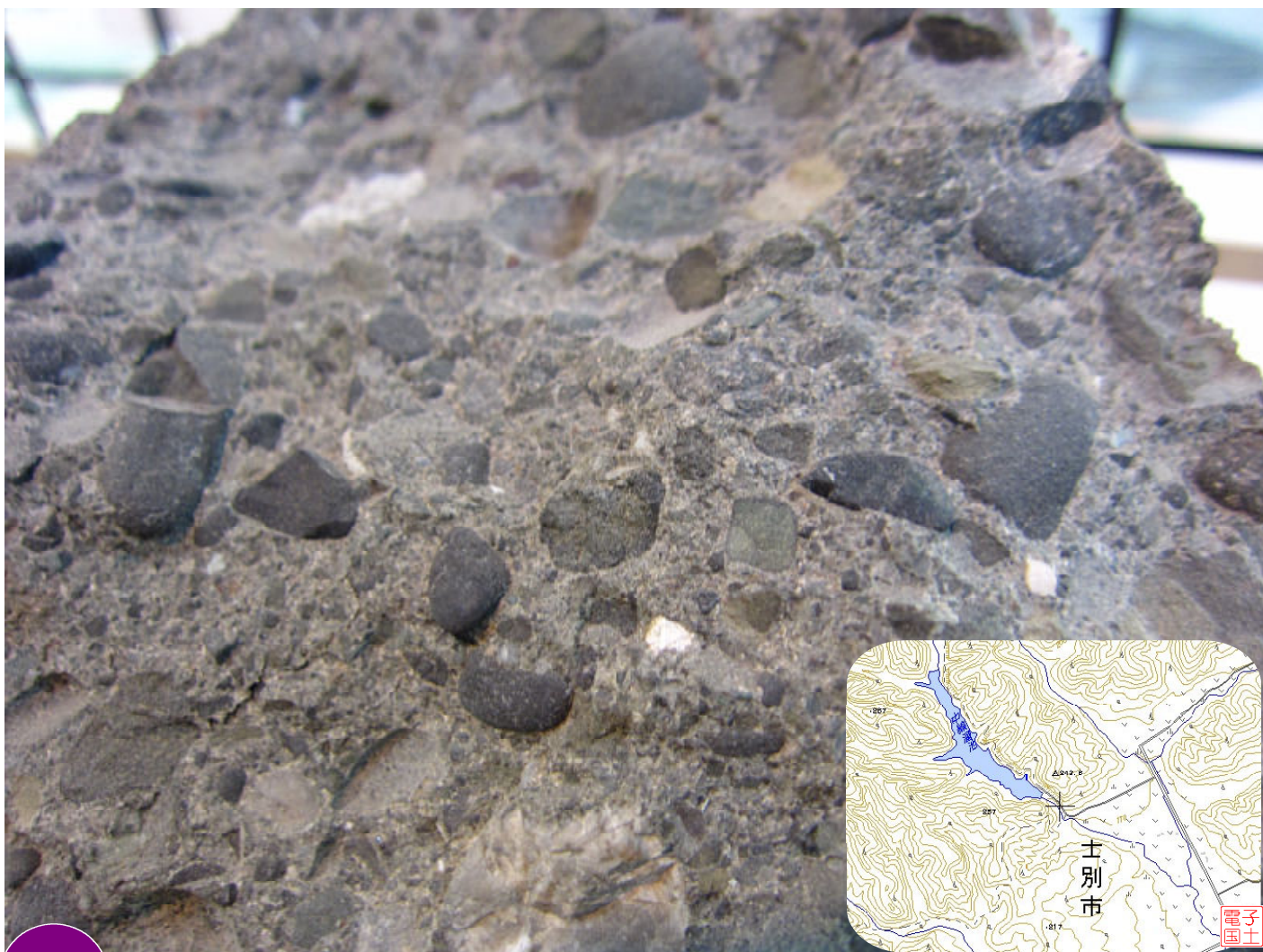
岩石名

礫岩 Conglomerate
(れきがん)

時代 中生代白亜紀

地質区分 エゾ累層群

産出地 士別市温根別中線川



解説

中生代の川から海に運ばれた礫

丸い礫がたくさん入った岩石、礫岩です。中生代の海の地層、「蝦夷累層群」は砂岩と泥岩を主とした地層ですが、しばしば礫岩層をはさみ、特に中部蝦夷層群の最下部に礫岩層が発達しています。丸い礫はもちろん川の流れによってつくられたものであり、河川が海に流れ込むような場所であったことを示しています。

士別市温根別中線川のため池付近には、礫岩層の大きな露頭があり、そこでは人頭大の大きな礫も含む礫岩層が観察されます。きっと急角度な島が海上に顔を出し、速い流れとともに丸い礫を海底に運び込んでいたのでしょう。

エゾ累層群の礫岩層は、白亜紀にあった「島弧（今の日本列島のようなもの）」から海底にもたらされた土砂や礫によってつくられたものと考えられています。礫岩に含まれる花崗岩の礫は、島弧で発生した火山活動によるもので、急峻な地形から河川が海底に流れ込んでいたものと考えられます。エゾ層群が堆積していた白亜紀に、この島弧が急激に発達し、礫が流れ込ん

だなのでしょう。

礫の種類は花崗岩だけではなく、陸地の火山の代表的な岩石である「流紋岩」や「安山岩」もたくさん見られます。この

ことは、かなり島弧が大きく成長していたことを示しています。しかし、突然このような地層がつくられたことに対しては、多くの学者が様々な説を提案しており、詳しいことはまだまだわからないのです。温根別中線川の露頭は、今後研究が必要な貴重な露頭なのです。



士別市温根別中線川の礫岩層

調べてみよう

- 礫岩の中の礫の岩石の種類を調べてみよう。